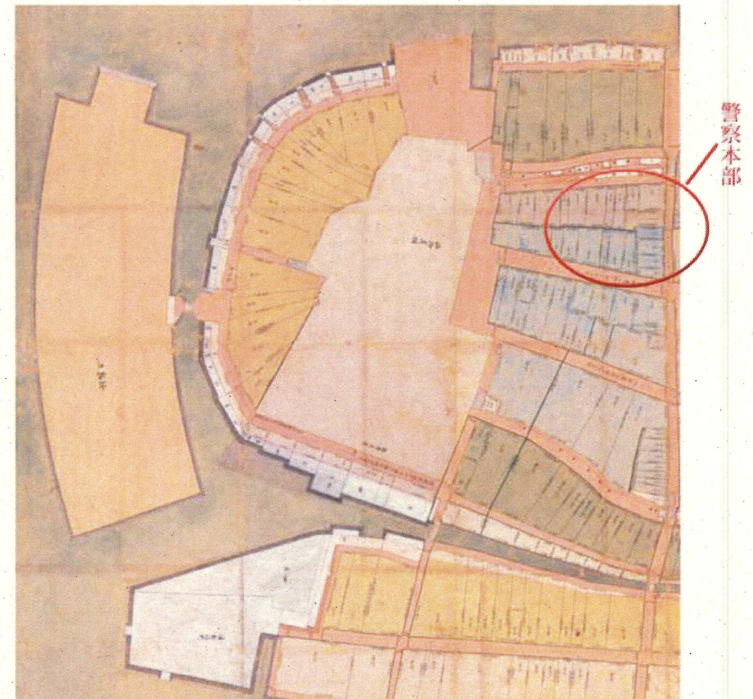
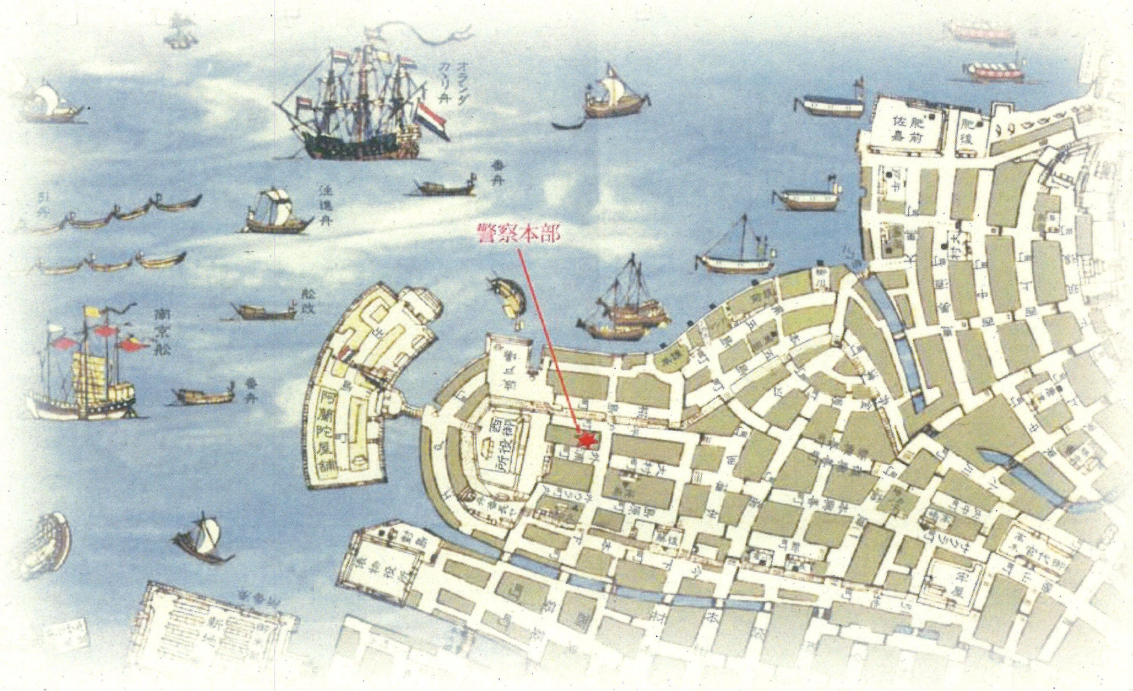


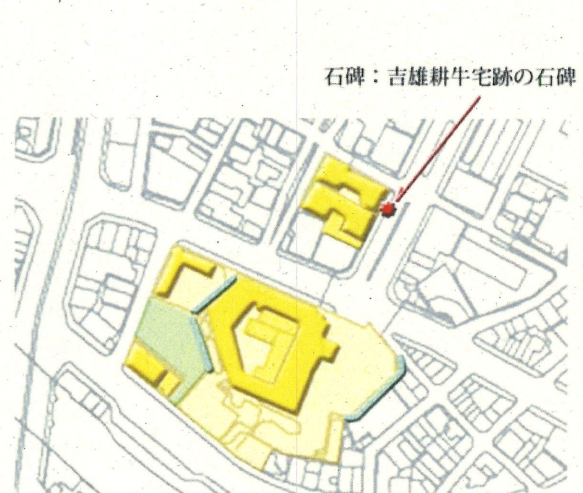
警察本部敷地の歴史
 ～ 警察本部敷地は明治以降に民地を活用 ～



64

長崎版画「享和二年肥州長崎図」(1802年)文錦堂板(長崎勝山町上ノ段)より

長崎惣町絵図(明和年間(1764年~1771年))



吉雄耕牛宅跡

Site of the former home of Dutch interpreter Yoshio Kōgyū (1724-1800)



吉雄耕牛(幸左衛門)(享保3年—寛政12年・1724-1800)江戸時代中期の蘭通詞で、蘭医でもあった。多くの洋医学書を集め翻訳をした。家塾「成秀館」を開き、全国から集った医学生延600余人の育成をし、吉雄流紅毛外科を全国に広めた。江戸の医学者も彼の指導を仰ぎ、有名な医学書「解体新書」には、耕牛自身が序文を寄せている。

■警察本部付近の歴史

- 江戸時代の警察本部付近は、元亀2年(1571年)に大村純忠がおこなった6町の町割りにおける外浦町・横瀬浦町にあたるものと考えられ、長崎の中で最初に造られた町にあたる。
- 絵図等では公的な建物は見あたらず、屋敷が密集している状況が窺えるため、町屋があったことは確かで、場所は特定できないが、吉雄耕牛宅がこの付近にあったとされている。